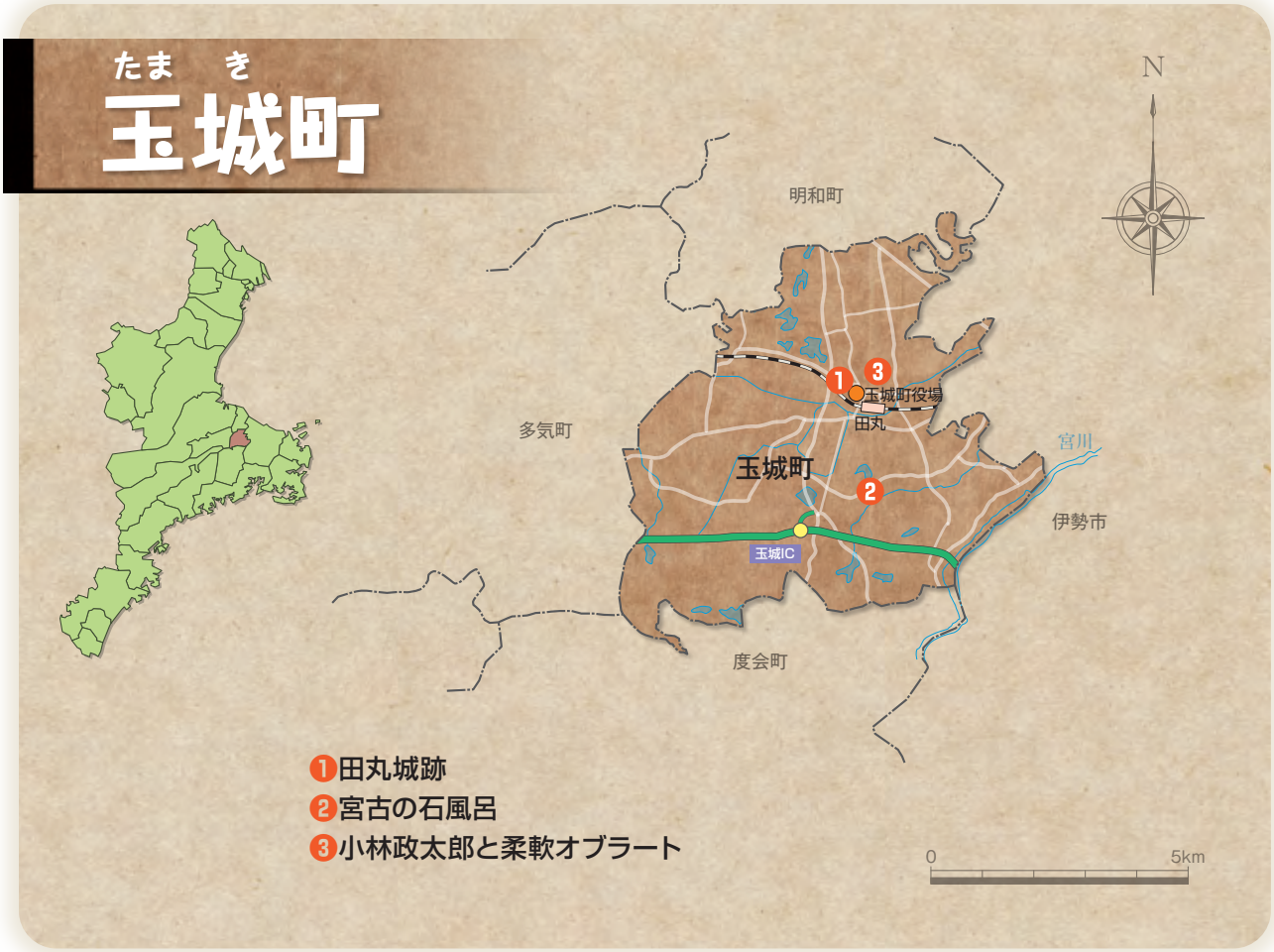
玉城町



史跡
玉城町

田丸城跡

田丸城跡は、伊勢本街道と熊野街道が合流した、丘の東端にあります。【→P99、P100】

田丸城は、1336（延元元）年ごろ、北畠親房を中心とした南朝方の勢力によって、海抜50mの山の上に築かれたことに始まります。その後、南北朝合一後に足利氏と和睦した北畠氏は、田丸城を神宮領支配の拠点としました。北畠氏を継いだ織田信長の二男信雄は、山に濠をめぐらして田辺の丘から独立させ、1575（天正3）年、今に残る田丸城を築いたといわれています。

田丸城には三層の天守がありましたが、1580（天正8）年に炎上しました。後に何代かの城主を経て、紀州藩領となりました。1616（元和2）年以降明治維新までの253年間、城代がおかれました。しかし、在城することはほとんどありませんでした。

田丸城跡は、1953（昭和28）年に県の史跡に指定されています。

【→P33、49】

田丸城跡（玉城町教育委員会提供）

- 田丸城を治めていた人について調べてみましょう。

文化財
玉城町

宮古の石風呂

玉城町宮古地区では、旧暦の正月を祝う習慣が今も受け継がれています。梶原寺のすぐ下には湧き水の出る小さい池があり、そのかたわらに石風呂があります。幅約2m、長さ5mの瓦葺きの小屋の中に、石で組まれた焚き口があり、奥に大小の石が熱を伝えるように並べられています。焚き口と浴室は壁で区切られています。前日の夜から焚き始め、6時間ほどで石が焼けて入浴ができる状態になります。蒸気が立ち込め、今でいうサウナ風呂の状態になります。蒸気が薄らぐと桶で水をかけて湯気をあげます。

この石風呂は、神事にたずさわる人びとの心身を清めるために焚かれてきました。現在、この石風呂が焚かれているのは、獅子頭神事の日だけとなり、旧正月10日の朝、初めに禰宜2人と当番6人が入浴します。そのあと、地域の人々も入浴をします。

現在も活用されている石風呂は珍しく、三重県内では宮古だけです。この石風呂は県の民俗文化財に指定されています。

宮古の石風呂（玉城町教育委員会提供）

▪ あなたの住んでいる地域の正月に行われる行事について調べてみましょう。

人物
玉城町

小林政太郎と柔軟オブラート

小林政太郎は、柔軟オブラートを発明し、日本だけでなく、世界にその商品を供給しました。今やオブラートといっても知らない人がいるかもしれません。ジャガイモなどのデンプンで作られた薄い紙状のもので、苦い粉薬を包んで飲むのに使われ、飴菓子の包装にもなりました。

小林政太郎は、1872（明治5）年に度会郡田丸（現在の玉城町）の医師小林籐十郎の長男として生まれました。18歳で医師開業試験に合格し、郷里田丸に帰り医師となりました。1902（明治35）年、柔軟オブラートを発明し特許を得るとともに、合名会社小林柔軟オブラート製造所を設立してその製造を開始しました。

また、日本のほかアメリカやヨーロッパなどでも特許をとり、柔軟オブラートは世界中で販売されました。1913（2）年には、「自動汽力制動装置」を考案し製造能力を増大するとともに、品質についても改良を重ねていきました。

しかし1920年代には、他にもオブラートの製法を種々研究開発する事業所が現れました。その結果、小林製造所の生産は1935（昭和10）年頃までで、その後工場は閉鎖になりました。

小林柔軟オブラートの広告
『三重県案内』（大正11年発行）
（三重県文化振興室提供）

▪ 三重県の発明家について調べてみましょう。